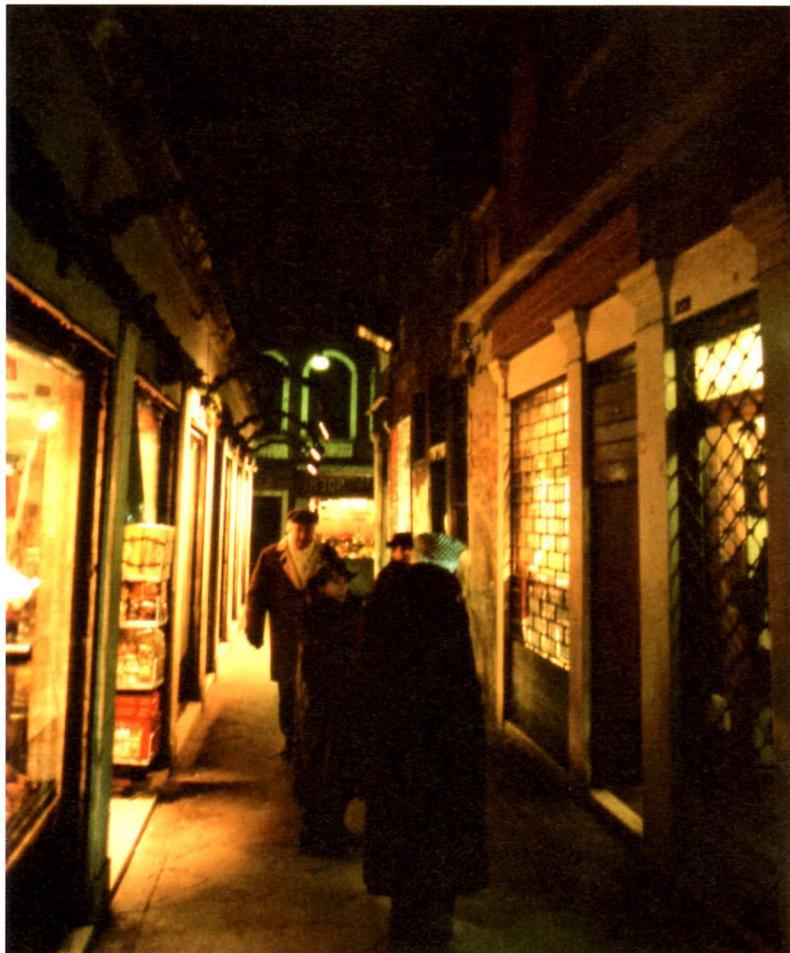


大井実の BOOKな話

福岡市内で書店『ブックス キューブリック』をいとなむ大井実さんの、本のある日常をつれづれに。

撮影／川上信也

憧れの「ファンキーじいさん」たちがいます。年をとつてもまったく魅力が衰えない、



コロナ・ブックス『植草甚一スタイル』平凡社／1,680円



『LET IT BLEED』

ザ・ローリング・ストーンズ
※版権の都合により、アルバムジャケットの掲載は控えています。

当時の若者のカリスマでした。映画やモダンジャズに造詣が深く、古本をこよなく愛し、気の向くままに日々ぶらぶら散歩を楽しむ、究極の趣味人。そんな彼の魅力を余すところなく楽しめる本が『植草甚一スタイル』です。身長151cm・靴のサイズは23cmと小柄な見た目とは裏腹にビッグな存在感を放ち、ニクいほど洒落たライフスタイルを持つ。奔放で気今まである意味わがままな愛すべき自由人を、秘蔵写真や興味深い文章で満喫できる一冊です。

植草が注目されたのはたぶん、70年

代のは70年代で、すでに60代だったにもかかわらず、奇抜なファッショント独の風貌がとにかくかっこいい。されたのは70年代で、すでに60代だったにもかかわらず、奇抜なファッショント

私の憧れの、2大ファンキーじいさんたちです。植草甚一は知らない方も多いかもしれません。とても味のある文章を描くエッセイストで、雑誌『宝島』のかつての責任編集者。植草が注目されたのは70年代で、すでに60代だったにもかかわらず、奇抜なファッショント

の生き方を追求する植草の生き方に大きな共感をおぼえ、憧れを抱いたのではないかでしょうか。

そして、我らがローリング・ストーンズ。これは30年前に買って、最近聴いて再びしびれた『LET IT BLEED』。伸び縮みしながらうねるように展開するサウンドにはロックの奥深さを感じるのですが、かといって決してマニアックではない。どこか肩の力が抜けていて、ロックは苦手という人にも非常に聴きやすいはず。1曲たりとも駄作のない完成度の高いアルバムで、年をとつても衰えることのない彼らのかっこよさの原点を感じ、どんどん引き込まれてしまいます。

年をとつてもパワフルで魅力的でセクシー。私もそんな70代を目指そうと決意を新たにする今日この頃です。